第1回運営協議会報告資料

3年目のコンセプト【活動と活動をつなげる】となっているため団体と団体の活動をつなげる支援や登録団体参加型のイベント開催をいたします。

1. 過去2年間および令和元年度の目標値と実績

	平成29年度	平成30年度	令和元年度（7月末時点）
第1会議室	3，806人	5，056人	1，475人
第2会議室	1，752人	3，761人	1，011人
フリースペース	8，781人	21，903人	7，376人
年間利用者数	14，339人	30，720人	9，862人
目標値	10，000人	16，000人	30，000人

・要因

成人層が簡単なPC作業で来館／学生・子育てママ・高齢者利用の増加

⇒HP・SNS・広報誌・カフェ・物品販売というツールで宣伝

みらいラボのイベント、登録団体のイベントの参加者や口コミが広がっている。

中央公民館の移転に伴う、利用者の増加

各団体のイベント開催日の集客力がついてきた。（こども食堂・学習支援・事例検討・将棋など）

2. 令和元年度数値目標

（1） 利用者数

年間総利用者数　30，000人

※昨年度実績より目標値が少ないのは市民活動団体ではなく、立地的に学生の学習スペース等の利用が多い為、市民活動以外での利用者で混雑した際には、中央公民館のフリースペースをご案内することになったため。

利用促進のための活動

① ホームページ、Facebook、みらいラボ通信の充実と、若い世代への情報発信としてLINEを検討。

② 利用のきっかけになるような自主事業や地域事業所との連携。

③ 学生の利用者が多い為、市民活動に興味や参加しやすい環境をつくる。

（2） 相談件数

年間相談件数　450件　（平成30年度実績　362件）

相談促進のための活動

① 利用者数増加のために実施する情報発信ツールを活用するだけではなく、市民活動実施場所へ赴き、団体の活動状況を把握することにより、各団体の活動をつなげる。

② 全登録団体に実施している団体活動状況調査を継続して行う。

(3) 新規団体登録数

年間登録団体数 10団体 （令和元年7月末登録団体数 110）

新規団体登録促進のための活動

① 関係機関との連携を図る。（社会福祉協議会、産業・創業支援センター、ちば南部地域若者サポートステーション、金田地域交流センター、公民館）

② 市民活動団体として活動をしたい方に団体登録についての説明をする。

(4)会議室利用件数

年間利用件数 1，000件 （平成30年度実績 933件）

会議室利用促進のための活動

① 昨年度末に実施した団体活動調査書を踏まえて団体へ活動促進、利用促進する。

② 会議室利用方法、利用用途を明確にし、周知を行う。

③ 関係機関との連携をし、周知を行う。（社会福祉協議会、産業・創業支援センター、ちば南部地域若者サポートステーション）

3. 令和元年度自主事業実施計画

内　　容	対象者	頻度	年回数
○ 全登録団体交流会	登録団体及び市民活動に興味ある方	年1回	1
○ カテゴリー別交流会	登録団体及び市民活動に興味ある方	年1回	1
○ 市民活動コーディネーター養成講座	市民活動に興味ある方	年1回	1
○ パラリンピック推進講座	パラスポーツに興味のある方	年1回	1
○ プログラミング教室	小学生	年2回	2
○ パステルアート教室	小学生～高齢者	年2回	2
○ 上総凧工作教室	小学生～高齢者	年1回	1
○ みなとまちごみ拾い	どなたでも	年1回	1
○ 市民ボランティア教室	市民活動に興味ある方	年3回	3
○ 市民活動相談会	市民活動に興味ある方	随時	12
○ NPO 立上基礎講座	市民活動に興味ある方	年1回	1
○ 健康ストレッチ教室	高齢者	年6回	6
○ ヨガ教室	成人～高齢者	週1回	48
○ 子育て談話会	子育て中のお母さんこども	月1回	12
○ コミュニケーション教室	成人～高齢者	年4回	4
○ きさらづみらいカフェ	全ての来館者	通年	－
○ 物品販売	全ての来館者	通年	－

4. 登録団体が開催したイベント等の実績

名称	内容
ココカラおやこカフェ	子育て中の親子向けのイベントでパン教室・整体・ベビーフォト・ネイル・商品販売
こども食堂	食育支援や地域コミュニティを目的としたこども食堂毎月1回開催
プログラミング教室	小学生の親子向けのプログラミングイベント年2回開催
すぶりば	福祉や自立支援に関する事例検討ワークショップ

5. 来場者アンケート内容

学生が席を使っていて団体の席がない⇒団体優先席を2席用意し、作業室 A・B も団体優先として、学生に対しての席の増設はせず、スパークルシティを案内している。

音楽イベントがあるといい ⇒登録団体のイベントがある際に HP 等で告知

SNS 情報のツールを増やしてはどうか ⇒今後、LINE 公式アカウントを検討

6. 指定管理者が感じる課題及び気づいた点、それに伴う行政への要望

①サークル活動⇔市民活動の分け方の難しさ、会員相互の共益、親陸のみの活動は NG だが目的が公益性になれば登録は可能。そこの判断材料は団体の思いが基準になっている。活動をいかに公益性の活動に進めていくかが課題。また審査基準につきましても明確な判断基準が必要と考えます。

②会議室の利用に関してみらいラボの施設目的に沿った市民活動団体が優先的に利用できることはもとより、個人で市民活動を行っている者に対しても同様の支援を行い、木更津市における市民活動を更に活発化させていくためには、会議室を条例及び規則に規定する団体だけではなく、幅広い方々が利用できるよう検討する必要があると思います。

③ICT を進める一環として、らづナビがありますが、みらいラボが窓口になっているイベントやボランティア情報を載せていただくことは可能でしょうか？